

崇元寺跡保存整備事業

1. 崇元寺とは

崇元寺は、琉球王国の歴代国王の位牌を祀った重要な場所でした。正門は3連アーチをもつ石造門で県内ではほかに例がありません。正門の両端には「下馬碑」と呼ばれる石碑があり、碑のところから馬を下りることになっていました。門の美しさから1933年(昭和8)に国宝に指定されましたが、沖縄戦で焼失しました。崇元寺跡地には琉米文化会館が建立され、後に公園となりました。

崇元寺公園北側は、末日聖徒イエス・キリスト教会が1966年(昭和41)に設立されましたが、教会敷地には崇元寺の遺構が含まれることから、那覇市が2023年に教会敷地を取得しました。現在、国指定史跡の範囲外に「崇元寺跡ガイダンス施設」の設置を進めています。

2. 事業スケジュール(案)

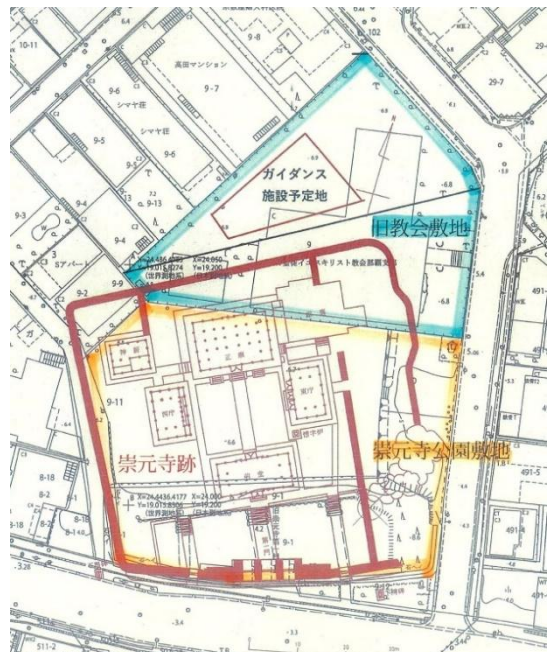
- ・2025～26年(令和7～8) ガイダンス施設工事予定
- ・2027年(令和9) ガイダンス施設供用開始予定

3. ガイダンス施設概要

旧教会敷地の南側は史跡指定地となるため、ガイダンス施設は北側に建設を予定しています。

建物は1階建て平屋で、広さは約436㎡を予定し、崇元寺の歴史や文化を紹介する展示室や映像ホール、事務室等を整備します。

また、ガイダンス施設の南側は崇元寺公園と一体的に活用できるよう広場を整備する予定です。



ガイダンス施設建設予定地(案)



崇元寺石門前(上)と崇元寺本堂(下)：昭和初期



崇元寺の復元模型